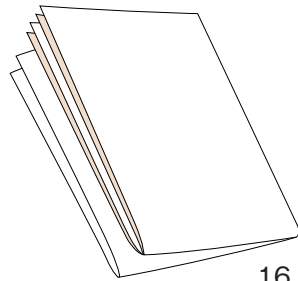
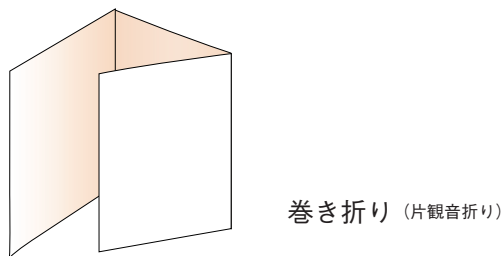
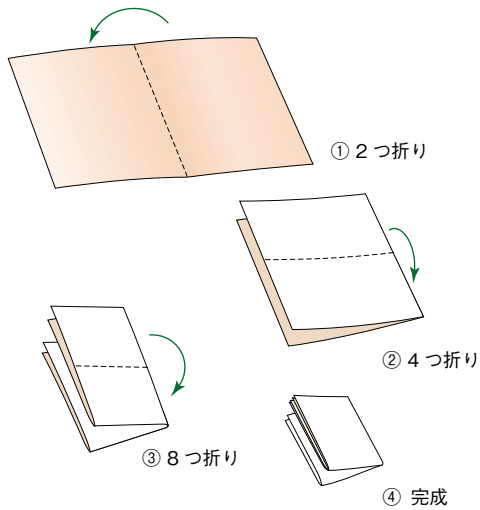


折り

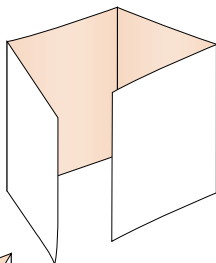
おり



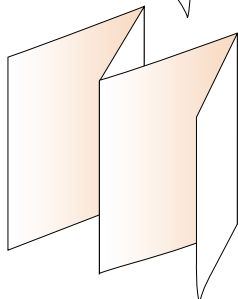
16 ページ回し折り



巻き折り (片観音折り)



観音折り

8 ページ経本折り
(アコーディオン折り)

概要

折り（おり）とは、書籍や雑誌などの冊子で、印刷した用紙（刷り本）を冊子の大きさに折りたたむことをいいます。

一般に冊子の印刷では、1枚の用紙の両面にそれぞれ複数のページをまとめて印刷し、これを折りたたむことによって冊子の1ページの大きさとなります。例えばA列本判の用紙を用いてA5判の書籍を印刷する場合、1枚の用紙に32ページ分を印刷することができるので、これを16ページ分2枚に半裁し、それぞれの用紙を8つ折り（2つ折りを3回）にすることで1ページの大きさとなります。こうして折られたものは折丁（おりちょう）といい、すべての折丁が綴じ合わされることによって冊子のかたちになります。

印刷された用紙を折るのにはさまざまな方法がありますが、一般的に用いられているのは「回し折り」という方法です。まず刷り本を横長に置いた状態で、右辺を左辺に合わせて折ります。次に折り目が手前になるように用紙を時計方向に90度回転させ、再び右辺を左辺に合わせて折ります。これをもう1度繰り返すことで、8つ折りができあがります。折りによって用紙が1ページ大に分割されるとともに、折丁のなかのページに前後関係が生じます。したがって、折丁の状態ではページが順に続いて並ぶよう、あらかじめ印刷の際に、各ページの内容を印刷する位置や方向を整えておくこと（面付け）が必要になります。折りの方法にはほかに巻き折りなどがあります。